

足利工業大学後援会報

第60号

発行

足利市大前町268-1

足利工業大学後援会

ご挨拶



後援会 会長

柳田 直

在学年の保護者の皆様には日頃より、後援会活動のご協力、ご支援を頂き、誠にありがとうございます。

卒業生の方々が活躍していることを見れば実現されていることがわかります。

維持されることと思えます。後援会でも今後変わることもなく学生生活を支援して

今年度、後援会会長に就任しました柳田直と申します。後援会は、学生生活、学生の課外活動の活性化、教職員の教育研究活動、大学の教育改善など充実した学生生活をご子息、ご息女が送れることを目的として、支援活動を行っています。

そのような人材を卒業生として社会に送り出し、今年度は大学設立五十周年となる大きな節目の年です。

引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

より学生生活を通じて自立への準備を行い、社会に出でてから活躍してくれることだと



長期にわたり、後援会に御尽力を頂きました。心より感謝いたします。誠にありがとうございました。

《退会役員》

- 副会長：仁木 薫 様
- 副会長：根岸 麻奈美 様
- 理事：石井 文子 様
- 理事：水原 智華子 様

大学創立五十周年を迎えて



学長 庄司 和男

後援会の皆様には、日頃より教育支援、就職支援に對する援助をはじめ、様々なご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

足利工業大学は、昭和四十二年に、聖徳太子が制定した「十七条の憲法」にある「和」の精神を建学の理念として、工学部一学部の単科大学として開学し、今年度、創立五十周年を迎えることができました。また今年度は、平成二十六年に開設した看護学部が初めての卒業生を送り出すことになり、名実共に、工学部と看護学部の二学部体制が確立します。そこで、平成三十年四月から大学名称を「足利大学」に変更することと致しました。

また、本学の母体である学校法人足利工業大学は、足利仏教和合会が大正十四年に足利実践女学校を開校したことに始まり、平成二十七年に創立九十周年を迎えました。これら五十周年と九十周年の記念事業の一環として、後援会からスクールパスの寄贈が有った他、大前キャンパスについては、同窓会の援助による「正門修繕工事」と「スクールパス発着所工事」、皆様からの寄付金を基にした「風と光の広場 ソーラーパネル設置工事」、本城キャンパスについては「新校舎整備事業」を計画しました。大前キャンパスについてはすでに工事が終了しており、本城キャンパスについては平成三十年二月末に完成の予定です。これら事業は、地域活性化の核となる学園形成のためのキャンパス整備であり、これからの社会に貢献できる人材を育成するためのものです。

環として、後援会からスクールパスの寄贈が有った他、大前キャンパスについては、同窓会の援助による「正門修繕工事」と「スクールパス発着所工事」、皆様からの寄付金を基にした「風と光の広場 ソーラーパネル設置工事」、本城キャンパスについては「新校舎整備事業」を計画しました。大前キャンパスについてはすでに工事が終了しており、本城キャンパスについては平成三十年二月末に完成の予定です。これら事業は、地域活性化の核となる学園形成のためのキャンパス整備であり、これからの社会に貢献できる人材を育成するためのものです。

本学は、「和」の精神のもと、人間力豊かな「心あるエンジニア」、心ある看護者の育成を目標として、この五十年間に二万二〇〇〇人を超える卒業生を社会に送り出してきました。また、その「和」の精神を世界に広げ、発展途上国との共同

工学部創立五十周年を新たな出発の年に！



副学長兼工学部長 末武 義崇

研究、留学生の受け入れ等を積極的に行い、在学生へのグローバル教育の一助とされています。ここで本学に関するニュースを紹介します。東京商工リサーチがまとめた「二〇一五年全国社長出身大学調査」において、栃木県内企業の社長の出身大学は、県内に本校を置く大学の中で本学がトップでした。また本学は、日本語教育振興協会が主催している「日本留学アワード」の理工系大学部門での大賞を三年連続で受賞致しました。「大学全体で留学生を歓迎し、地

後援会の皆様には、日頃より本学の教育・研究に関するご理解とご協力を賜り、心より御礼を申し上げます。本学工学部は、今年度、創立五十周年の記念すべき年を迎えます。加えて今年度は、平成二十六年からスタートした看護学部が完成年度を迎え、第一期生を送り出

すこととなります。平成三十年四月からは、大学名称を「足利工業大学」から「足利大学」に変更することが決まり、本城キャンパスの整備も着々と進行しております。こうした記念すべき年を新たな飛躍の年にすべく、教職員一同一丸となって努力しているところであります。

教育面では、アクティブラーニングの積極的な導入から少人数教育の強化に向けて、長尾教務委員長を中心にカリキュラムの再検討を行っております。フレッツシユマンゼミ、実験実習科目、課題研究、卒業研究など、これまでもアクティブラーニングに分類される授業科目は導入されているのですが、今年度から、全分野・全学年・全学期に必ずアクティブラーニング科目が配置されるよう、カリキュラムの修正を行っております。学生指導の面では、増山学生指導委員長を中心に、休退学対策の見直しを図っております。本学は、十年ほど前に休退学者が増加した時期があり、退学防止委員会を設置して休退学者の減少に成功した経験を持つております。その後、再び休退学者が増加傾向を示すようになり、昨年度から再度対策に乗り出すべく、学生指導委員会で議論を重ねております。十年前とは異なり、Z世代の学生支援システムや出席管理システムが整備されておりますので、そうしたシステムを有効に活用しながら休退学の防止対策を再検討していきます。就職指導につきましては、有効求人倍率が一・四九倍と四三年ぶりの高水準に達したとの新聞報道もありま

看護学部の完成年度を迎えて



看護学部学部長 山門 實

したが、本学を取り巻く就職環境も極めて良好です。昨年度は就職率は、九八・八%でほぼ希望者全員が就職できました。本学に対する求人倍率は、学部生については四三・七倍、大学院生に至っては二二・五・七倍という高倍率です。さらに注目すべき数字は、一人当たりの企業受験数が、僅か一・三社ということです。つまり、ほとんどの学生が第一希望の企業、悪くても第二希望の企業に就職できているというのが現状です。こうした追い風をフルに活かしながら、質・量ともに学生諸君が満足できるように、川中子新就職指導委員長を中心に指導を続けております。本学のこうした優れた点を受験生にも広く知ってもらうために、室新入試企画委員長を中心に、大学PRの強化も図っているところ

です。特に、今年度創立五十周年を迎え、来年度「足利大学」として新たなスタートを切るうとしていた本学の活気溢れる現状を受験生に伝えるべく、オープンキャンパスの見直しを図っております。特に、今年度は、通常のオープンキャンパスに加え、ミニ・オープンキャンパスを導入し、保護者同伴の少人数を対象とした大学のPRにも努めております。既に、六月十日に第一回のミニ・オープンキャンパスを開催し、予定を上回る参加者をお迎えして実施することができました。これまで本学が築いてきた教育・研究の実績を継承しつつ、地域に根差した高等教育機関として本学が発展し続けるよう努力して参ります。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願ひ申し上げます。

お陰様をもちまして、看護学部はいよいよ完成年度を迎えることとなりました。

本年度の入学生八十九名を加え、四学年で三三三名の所帯となりました。今年度

からは公衆衛生看護学領域の臨地実習が開始されていきますが、この補助については後援会のご支援をいただき、深く感謝いたしております。完成年度における大きな業務は、まずは、四年生全員の卒業と国家試験の合格です。そして全学生の就職です。ことに前者については、平成二十八年年度の看護師国家試験の合格率が八八・五(新卒者九四・三%)と、過去から二番目の低い合格率となっていることから、本看護学部(本学部)の卒業生についても油断のできない状況にあります。そのためには、本学部の教育方針である「自学自習」にとどまらず、国家試験対策委員会を中心とした全教職員参加型の国家試験対策が不可欠となります。グループアドバイザーによる少人数教育、全国模擬試験の成績に基づいて学生を層別化した集団教育、さらには個別教育が必要となります。この六月からは、私も参加させていただき、万全の体制にしたいと考えています。

後者については、就職課の指導のもと、本年四月三日に臨地実習をお願いしている主要六病院の「病院説明会」を開催しましたが、すでに就職の内定を決めている学生もでてきています。わたく

アンケートから見える学生像



工学部教務委員長 長尾 昌朋

の希望は、地域立大学の卒業生として、足利市を中心とする両毛地区の住民の健康増進のために、まずは近隣の基幹病院に就職することです。ことに高度先進医療病院に就職し、現在の最先端の医療を経験することが重要なキャリアと考えています。そして、将来の希望する看護師を目指してさらなるキャリアアップをしてほしいと考えています。ちなみに、足利赤十字病院は高度先進医療病院としてのみならず、わが国ではまだ少ない世界的な病院機能評価機構であるJoint Commission Internationalにより評価認定されている病院であり、そのような質の高い

後援会の皆様には、日頃から教育に関する様々なご支援を賜り、心から感謝いたします。昨年末に、宮崎大学の藤墳先生が企画したアンケート「理工系学部における学習状況調査」に参加しました。

全国の二十の工学部(国立十二、公立三、私立五)の五千名を超える学生から回答が得られたそうです。当大学では四五三名の学生の場を借りまして、ご協力に感謝いたします。

全体のアンケート結果の概要は以下の通りで、当大にも概ね当てはまりました。

①学生の目標は、工学全般に精通したゼネラリストよりも、特定分野のスペシャリストに重点が置かれている。

②学生の主体性に基づく学習の高度化よりも、基礎力を確実にするカリキュラムの標準化に学生が満足している。

③研究室が学習の場として既に機能しているため、研究室制の機能強化よりも、カリキュラムの体系化が求められている。

④学習目標を伝えることが、学習効果に良い影響を与える。

アンケートの回答を詳細に比較すると、全体との相違から当大の特徴も浮かび上がります。全体の回答に対して、以下のような傾向が見られました。

①きめ細やかな指導を感じている学生が多い。

②卒業後の目標が明確で、資格取得を重視している学生が多い。

③卒業研究に費やす時間が短い。

④課題解決能力に関して、問題発見力を重視する学生が少なく、専門家から情報を引き出す能力を重視する学生が多い。

取り上げたいと思います。また、入学式直後に実施している「泊二日のフレッシュマンキャンプ」に、社会人基礎力に関するアンケートを導入しました。十七の項目に関して、キャンプの前後で自己評価をしてみたいと思います。

キャンパス前のアンケートの回答では、新入生は、勉学、友達作りや会話、日常生活の不安をかかえていました。それは、「自信」「発信力」「働きかけ力」の評価が低いことと関連し、新たな環境へ飛び込む際の弱点と思われる。キャンプ後には、前

学生指導・支援の取り組み



工学部学生指導委員長 増山 正明

後援会の皆様には、日頃からいろいろなお支援を頂きありがとうございます。本学工学部学生指導委員会は、学生の指導に関する事項を全般的に扱い、教育環境の充実を図ることを目的とし、これまで学生の生活・学習指導、カウンセリング、健康管理などに取り

述の項目に加え「傾聴力」「主体性」などの評価が高くなりました。友達ができたという回答も多く、友達作りや会話への不安はかなり解消できたと思います。そして、ほとんどの新入生がキャンパスに満足したと回答しており、大学生活への一歩を円滑に踏み出したことと思います。

このように、学生の状況を把握して、より良い学習環境を実現していきたいと思っております。今後とも、工学部教務委員会の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

一つ目は、学生の課外活動の活性化に関することです。部活やサークル活動は友人との交流を深め、人間性としての幅を大きく広げることにつながります。教職員によるクラブ部長会議も活用しながらサポートしていきたいと考えています。学生が主体的に取り組む行事として、わたらせ祭や球技大会は実践的な企画・運営またコミュニケーション向上の場として重要であります。

より参加しやすい仕組みづくりに向けて検証し、必要であれば見直しを図ってまいります。また、ボランティア活動への積極的な参加・協力を支援しています。

二つ目は、生活指導に関するものです。充実した大學生生活を送るうえで、また就職活動に向けても、まず健康であることが基本です。そのためには適正な生活リズムや食事、運動などについて、日常の心がけが必要ととらえ、関係機関と連携して健康づくり、体力づくりの支援を強化してまいります。

また、カウンセリングについても教職員や保護者と連携して、多様な学生に対しての継続的な指導を行います。キャンパス内全面禁煙の取り組みは、受動喫煙防止の観点から、禁煙指導や喫煙習慣をつけられないため

最後に、学生指導委員会は、学生支援課、保健室、カウンセラーなどの連携を強化し、学生のよりよい教育環境づくりに向けて全力でサポートしてまいります。今後とも、ご理解とご協力をお願いいたします。

就職活動の支援



就職指導委員長 川中子 敬至

前年度の就職指導にご尽力された齋藤榮教授の後を継いで、委員長を拝命した川中子です。できる限りのことはしたいと考えております。ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

さて、今春卒業の学生では、内定率が九八・八%と、前年度の実績を四・七%上昇させました。本年度初頭の動きを見ますと、就職活動がさらに活況となり、内々定をいただいている実数も増加しております。活動時期の早期化もあります。複数の会社から内々定をいただいた学生も多く見られますので、最終的にも前年度並みの内定率は確保できるとは思っています。

の学内企業セミナーでは、本学体育館を会場に、二日間の日程で、およそ三〇〇の企業にご参加いただいております。このため、二月中旬から三回のキャリア講座を開き、その準備ができるようにしております。

就職指導委員会では、この学内企業セミナーが円滑に実施できるように、企業とのパイプ作りを努めております。毎年秋に、東京と足利の二会場で「就職情報交換会」を開催し、およそ六〇社の採用担当者や本学教員とが情報を交換し、相互理解を図っております。

看護学部は、今年度初めての卒業生を誕生させますが、

工学部に勝るとも劣らない就職指導体制を敷いて病院採用、進学、保健師希望者等について、それぞれ指導してまいります。委員会でも報告いただいた範囲内でも四月初頭に学内合同病院説明会を開催し、四年次生が各病院の採用担当者や面接したとのことです。また、低学年でのキャリア講座でも外部講師をお招きし、看護学部の特色を出しているようにしております。

いづれにしても、本学を巣立って行く卒業生の進路決定には、保護者の皆様のご理解とご支援が必要とすよう、お願い申し上げます。

平成三十年の一月には、看護学部および保健師の国家試験があります。国試対策委員会を中心に全教員が一致団結して、国家試験突破に向けた学生支援体制の強化を図っております。

四年生にとつて、人生における大きなイベントが複数横たわっている一年間ですが、昨今の学生の表情にはこまごまと長く厳しい実習を乗り越えてきた自信と最上級生としての落ち着きを感じられます。四年生全員が自己の描く将来像に向かい力強い一歩を踏み出せることを願っております。

三年生は、五月からスタートした領域実習の真ただ中にあります。領域実習は成人

また、今年度は初めて、看護学部の四年次生も就職活動へ参加致します。工学部とは条件が異なるが、学生も就職への影響を与えるという点では変わりありません。

また、今年度は初めて、看護学部の四年次生も就職活動へ参加致します。工学部とは条件が異なるが、学生も就職への影響を与えるという点では変わりありません。

後援会の皆様には、日頃より本学の教育にご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。

本学の看護学部は開設して四年目を迎え、全学年がそのいきました。そして、新設の学部として完成の年度



看護学部教務委員長 細谷 京子

完成年度を迎えた看護学部

平成二十六年に入学した一期生は最終年次に入り、五月からは保健師教育課程の集大成となります。公衆衛生看護学実習Ⅱの期間とな

平成二十六年に入学した一期生は最終年次に入り、五月からは保健師教育課程の集大成となります。公衆衛生看護学実習Ⅱの期間とな

平成29年度 足利工業大学後援会予算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

収入の部

(単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
繰越金	4,551,653	5,083,603	△ 531,950	
会費	29,275,000	27,400,000	1,875,000	1,171名分(@25,000円)(工学部843名、看護学部328名)
雑収入	60,000	60,000	0	学生災害傷害保険異動返還金
計	33,886,653	32,543,603	1,343,050	

支出の部

(単位 円)

科目	本年度予算額(A)	前年度予算額(B)	増減(A)-(B)	摘要
1 運営費	2,570,000	2,470,000	100,000	
会議費	1,400,000	1,300,000	100,000	後援会総会・理事会等諸費用
事務費	300,000	300,000	0	事務費一般
印刷費	250,000	250,000	0	後援会報発行印刷代 他
通信費	620,000	620,000	0	後援会総会通知発送費・後援会会報発送費・AIT通信発送費 他
2 学生助成費	19,900,000	19,330,000	570,000	
学生研究補助費	900,000	900,000	0	卒業研究等補助
クラブ援助費	9,000,000	9,000,000	0	クラブ活動援助費
学生活動費	6,000,000	6,000,000	0	学生自治会援助金・大学祭援助・球技大会援助 等
卒業記念費	2,500,000	2,000,000	500,000	卒業記念アルバム作成費(340冊×7.2千円=2,448千円)
保険料	1,500,000	1,430,000	70,000	学生災害傷害保険料・Will(看護学生用)
3 教育助成費	3,200,000	3,700,000	△ 500,000	
就職推進補助費	2,000,000	2,000,000	0	就職関連補助
厚生事業費	1,000,000	1,200,000	△ 200,000	朝食補助・情報処理資格試験補助 他
教育環境援助費	200,000	500,000	△ 300,000	学内環境設備費
4 慶弔費	700,000	700,000	0	入学式献花・香典 他
5 雑費	100,000	100,000	0	
6 積立金	7,129,220	6,000,000	1,129,220	足利工業大学50周年記念事業記念品
7 予備費	287,433	243,603	43,830	
計	33,886,653	32,543,603	1,343,050	

積立金の部 (単位 円)

前年度繰越金	6,000,000
一般会計より	7,129,220
合計	13,129,220

足利工業大学50周年記念事業記念品 (中型スクールバス)

支払い総額 ￥13,129,220円

事務局便り

去る六月十七日(土)に平成二十九年後援会総会を開催いたしました。六十四名の会員の方にご出席いただきました。ありがとうございました。ご都合により、ご出席いただけなかった方や、また、疑問・質問やご要望などがおありの方は、後援会事務局の学生支援課(TEL〇二八四一六二一〇九五〇)及び会計課(TEL〇二八四一六二一〇八一〇)へご遠慮なくお問い合わせください。

総会後には、石坂啓一氏による「進路・就職についてのアドバイス」の講演会を行いました。沢山のスライドを用いた資料とともに、具体的なアドバイスがあり、たいへん実になるお話が聴講できました。ご出席いただきました方々のアンケートにも、講演内容がよかった等のご感想をいただきました。

会報誌面にも記載しましたが、後援会から足利工業大学五十周年記念事業の記念品として寄贈されたスクールバスが七月二十五日に納車されました。この新しいスクールバスは、平成三十年四月足利大学へ名称変更することをふまえた仕様になっています。また、平成三十年四月は本城新キャンパスが開設されます。本学にとって大きな飛躍の年となります。後援会会員の皆様で連携し協力していきたいと思っております。どうぞよろしく願いたします。

十月七日～十月九日わたらせ祭(大学祭)が開催されます。秋の三日間どうぞ足利工業大学大前キャンパスへお越しください。